

「百人一首と万葉集・歌の世界に親しもう」

群馬県立女子大学教授 北川和秀

A・百人一首歌の分類

古今	24
後撰	7
拾遺	11
後拾遺	14
金葉	5
詞花	5
千載	14
新古今	14
新勅撰	4
続後撰	2

春	6
夏	4
秋	16
冬	6
恋	43
羈旅	4
離別	1
雑	20

B・百人一首の万葉歌

2 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山

春過ぎて夏来にけらししろたへの衣ほすてふ天の香具山（新古今集）

春過而 夏来良之 白妙能 衣乾有 天之香来山（万葉集二八）

春過ぎて夏来たるらし白栲の衣干したり天香具山（同訓）

はるすきてなつそきぬらしゝろたへのころもかはかるあまのかこやま（元暦校本万葉集）

はるすきてなつそきぬらしゝろたへのころもかはかぬあまのかこやま（類聚古集）

春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほしたるあまのかこ山（五代集歌枕）

春過ぎて夏来ぬらし白たへの衣かわかす天の香具山（古来風躰抄）

はるすぎてなつきにけらし白妙のころもほすてふあまのかぐやま（百人秀歌）

3

あしひぎの山鳥の尾のしだり尾のながし夜をひとりかも寝む

葦引の山鳥の尾のしだり尾のながし夜をひとりかも寝む（拾遺集）

足日木乃 山鳥之尾乃 四垂尾乃 長永夜乎 一鴨将宿（万葉集二八〇二）

あしひぎの山鳥の尾のしだり尾の長々し夜をひとりかも寝む（同訓）

4

あしひぎの山どりのをのしだりをのながし夜をひとりかもねん（人丸集）
あしひぎのやまどりのをのしだりをのながしよをひとりかもねん（百人秀歌）

田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ

田子の浦にうちいでて見れば白たへの富士の高嶺に雪は降りつつ（新古今集）

田児之浦從 打出而見者 真白衣 不尽可能高嶺 雪波零家留（万葉集三二八）

田子の浦ゆうち出でて見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける（同訓）

たこのうらにうちてゝみればしろたへのふしのたかねにゆきはふりつつ（元暦校本万葉集）

田子のうらにうち出でてみれば白妙のふじのたかねに雪ぞふりける（五代集歌枕）

たこの浦にうちいでてみれば白妙のふじのたかねに雪はふりにけり（千五百番歌合）

たこのうらにうちいでてみれば白妙のふじのたかねに雪はふりつつ（百人秀歌）

（参考）

1

秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ

秋の田のかりほのいほの苫を荒みわが衣手は露に濡れつつ（後撰集）

秋田刈る飯廬を作りわが居れば衣手寒く露そ置きにける（万葉集二二七四）

C・万葉集の歌の表記

春楊 葛山 発雲 立座 妹念（二四五三）
東野 炎 立所見而 反見為者 月西渡（四八）

余能奈可波 牟奈之伎母乃等 志流等伎子 伊与余麻須万須 加奈之可利家理（七九三）

多麻河泊尔 左良須弓豆久利 佐良左良尔 奈仁曾許能児乃 己許太可奈之伎（三三七三）

恋死 恋死 哉我妹 吾家门 過行（二四〇一）

古非之奈婆 古非毛之祢等也 保等登藝須 毛能毛布等伎尔 伎奈吉等余牟流（三七八〇）

熟田津尔 船乘世武登 月待者 潮毛可奈比沼 今者許藝乞菜（八）
春野尔 霞多奈毗伎 宇良悲 許能暮影尔 鶯奈久母（四二九〇）

8 わが庵は都の辰巳しかぞ住む世をうぢ山と人はいふなり

わがやどはみやこのたつみしかぞすむよをうぢ山と人もいふらん(古今和歌六帖)

わがいほはみやこのたつみしかぞすむよをうぢ山と人はいふなり(百人秀歌)

10 これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬもあふ坂の関

これやこの行くも帰るも別つゝ知るも知らぬもあふさかの関(後撰集)

これやこのゆくもとまるもわかれてはしるもしらぬもあふさかのせき(素性集)

13 筑波嶺の峰より落つるみな川の恋ぞ積もりて淵となりぬる

筑波嶺の峰よりおつるみなのがはこひぞつもりてふちとなりけん(五代集歌枕)

つくばねのみねよりおつるみなのがはこひぞつもりてふちとなりける(百人秀歌)

14 陸奥のしのぶもぢぢりたれゆゑに乱れそめにしわれならなくに

陸奥のしのぶもぢぢり誰ゆへにみだれむと思ふ我ならなくに(古今集)

みちのくの忍ぶもぢぢり誰ゆゑにみだれそめにし我ならなくに(伊勢物語)

43 逢ひ見てののちの心にくらぶれば昔はものを思はざりけり

逢ひ見ての後の心にくらぶれば昔は物も思はざりけり(拾遺集)

あひみてののちの心にくらぶればむかしはものもおもはざりけり(敦忠集)

あひみての後の心にくらぶればむかしはものもおもはざりけり(古今和歌六帖)

50 君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな

君がためをしからざりしいのちさへ長くもがなと思ひぬるかな(後拾遺集)

きみがためをしからざりしいのちさへながくもがなとおもほゆるかな(義孝集)

55 滝の音は絶えて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ

滝の音は絶えて久しく成ぬれど名こそ流て猶聞えけれ(拾遺集)

滝の音はたえてひさしく成りぬれどなこそながれて猶きこえけれ(千載集)

57 めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に雲隠れにし夜半の月かな

めぐり逢ひて見しやそれともわかぬまに雲隠れにしよはの月かげ(新古今集)

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲隠れにし夜はの月かげ(紫式部集)

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲隠れにし夜はの月かげ(百人一首異本)

62 夜をこめて鳥のそら音にはかるともよに逢坂の関は許さじ

夜をこめて鳥のそらねにはかるともよに逢坂の関はゆるさじ(後拾遺集)

夜をこめて鳥の空音にはかるともよに逢坂の関は許さじ(枕草子)

72 音に聞く高師の浜のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ

音に聞く高師の浦のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ(金葉集)

おとにきくたかしのはまのあだなみはかけじやそでのぬれもこそすれ(俊忠集)

77 瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ

瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれてもすゑにあはむとぞ思ふ(詞花集)

ゆきなやみ岩にせかるる谷川のわれてすゑにもあはんとぞおもふ(久安百首)

78 淡路島通ふ千鳥の鳴く声にいく夜寝覚めぬ須磨の関守

淡路島かよふちどりのなくこゑにいく夜ねざめぬ須磨の関守(金葉集)

淡路島かよふちどりのなくこゑにいくよめざめぬすまのせきもり(百人秀歌)

79 秋風にたなびく雲のたえ間より漏れ出づる月の影のさやけさ

秋風にたなびく雲の絶え間よりもれいづる月のかげのさやけさ(新古今集)

秋風にただよふ雲のたえまよりもれ出づる月の影のさやけさ(久安百首)

85 夜もすがらもの思ふころは明けやらでねやのひまさへつれなかりけり

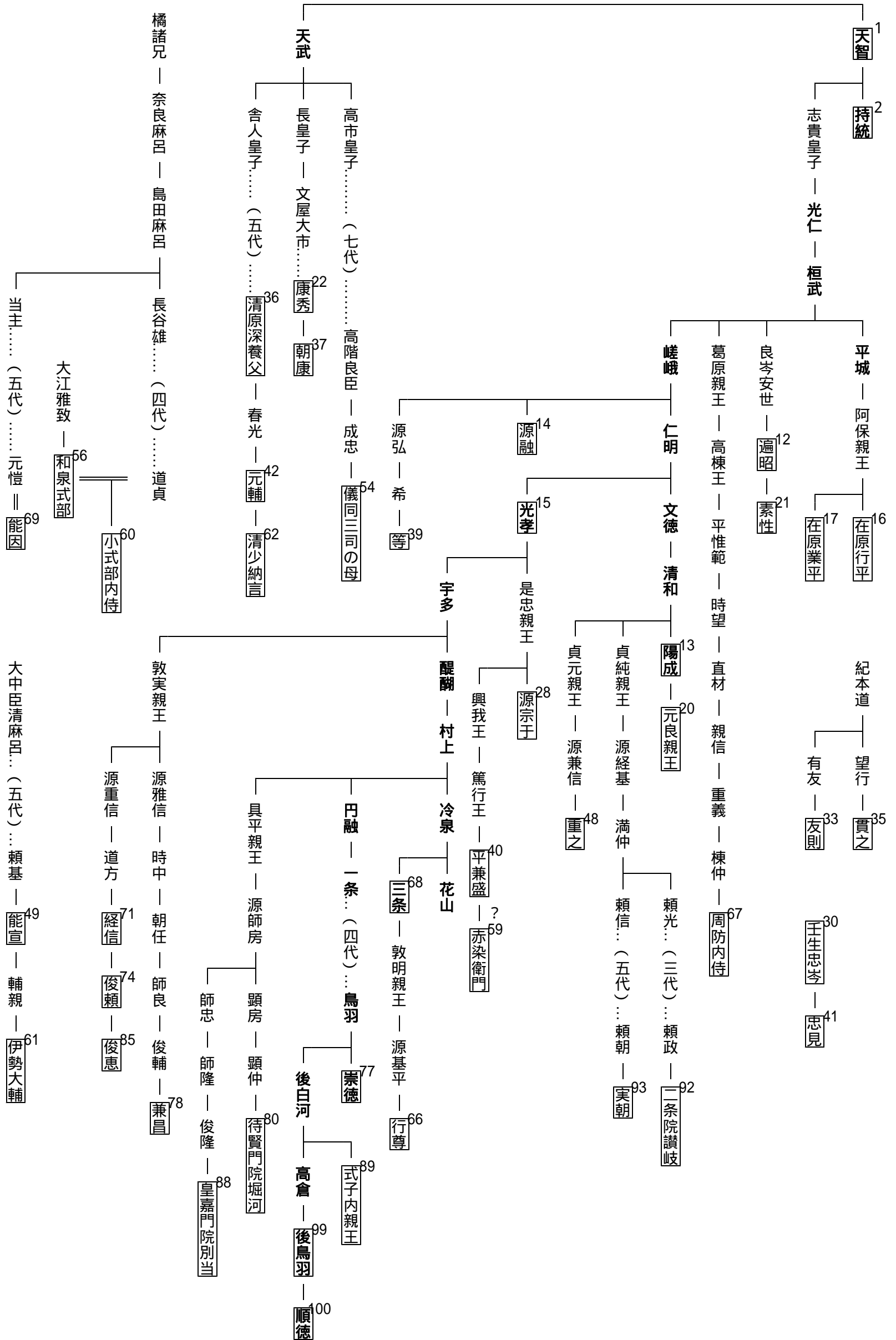
夜もすがらもの思ふころは明けやらぬ闇のひまさへつれなかりけり(千載集)

夜もすがらもの思ふ比はあけやらぬねやのひまさへつれなかりけり(百人一首異本)

小倉百人一首一覧

	作者	歌	出典		
1	天智天皇	秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ	後撰集	秋中	302
2	持統天皇	春過ぎて夏来にけらし白妙の衣干すてふ天の香具山	新古今集	夏	175
3	柿本人麻呂	あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む	拾遺集	恋三	778
4	山部赤人	田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ	新古今集	冬	675
5	猿丸大夫	奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき	古今集	秋上	215
6	大伴家持	鶺鴒の渡せる橋に置く霜の白きを見れば夜ぞ更けにける	新古今集	冬	620
7	阿倍仲麻呂	天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも	古今集	羈旅	406
8	喜撰	わが庵は都の辰巳しかぞ住む世をうぢ山と人はいふなり	古今集	雑下	983
9	小野小町	花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに	古今集	春下	113
10	蝉丸	これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬもあふ坂の関	後撰集	雑一	1089
11	小野篁	わたの原八十島かけて漕ぎ出でぬと人には告げよ海人の釣舟	古今集	羈旅	407
12	遍昭	天つ風雲の通ひ路吹きとぎよ乙女の姿しばしとどめむ	古今集	雑上	872
13	陽成天皇	筑波嶺の峰より落つるみな川の川恋ぞ積もりて淵となりぬる	後撰集	恋三	776
14	源融	陸奥のしのぶもぢずりたれゆゑに乱れそめにしわれならなくに	古今集	恋四	724
15	光孝天皇	君がため春の野に出でて若菜摘むわが衣手に雪は降りつつ	古今集	春上	21
16	在原行平	立ち別れいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む	古今集	離別	365
17	在原業平	ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは	古今集	秋下	294
18	藤原敏行	住の江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ路人目よくらむ	古今集	恋二	559
19	伊勢	難波漕短き蘆のふしの間も逢はでこの世を過ぐしてよとや	新古今集	恋一	1049
20	元良親王	わびぬれば今はたおなじ難波なるみをつくしても逢はむとぞ思ふ	後撰集	恋五	961
21	素性	今来むといひしばかりに長月の有明の月を待ち出でつるかな	古今集	恋四	691
22	文屋康秀	吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらむ	古今集	秋下	249
23	大江千里	月見ればちぢにもものこそ悲しけれわが身ひとつの秋にはあらねど	古今集	秋上	193
24	菅原道真	このたびは幣も取りあへず手向山紅葉の錦神のまにまに	古今集	羈旅	420
25	藤原定方	名にし負はば逢坂山のさねかづら人に知られで来るよしもがな	後撰集	恋三	700
26	藤原忠平	小倉山峰の紅葉葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ	拾遺集	雑秋	1128
27	藤原兼輔	みかの原わきて流るるいづみ川いつ見きとてか恋しかるらむ	新古今集	恋一	996
28	源宗子	山里は冬ぞ寂しさまさりける人目も草もかれぬと思へば	古今集	冬	315
29	凡河内躬恒	心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花	古今集	秋下	277
30	壬生忠岑	有明のつれなく見えし別れより暁ばかり憂きものはなし	古今集	恋三	625
31	坂上是則	朝ぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里に降れる白雪	古今集	冬	332
32	春道列樹	山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり	古今集	秋下	303
33	紀友則	ひさかたの光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ	古今集	春下	84
34	藤原興風	誰をかも知る人にせむ高砂の松も昔の友ならなくに	古今集	雑上	909
35	紀貫之	人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香に匂ひける	古今集	春上	42
36	清原深養父	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ	古今集	夏	166
37	文屋朝康	白露に風の吹きしく秋の野はつらぬきとめぬ玉ぞ散りける	後撰集	秋中	308
38	右近	忘らるる身をば思はず誓ひてし人の命の惜しくもあるかな	拾遺集	恋四	870
39	源等	浅茅生の小野の篠原忍ぶれどあまりてなどか人の恋しき	後撰集	恋一	577
40	平兼盛	忍ぶれど色に出でにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで	拾遺集	恋一	622
41	壬生忠見	恋すてふわが名はまだき立ちにけり人知れずこそ思ひそめしか	拾遺集	恋一	621
42	清原元輔	契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山波越さじとは	後拾遺集	恋四	770
43	藤原敦忠	逢ひ見てののちの心にくらぶれば昔はものを思はざりけり	拾遺集	恋二	710
44	藤原朝忠	逢ふことの絶えてしなくはなかなかに人をも身をも恨みざらまし	拾遺集	恋一	678
45	藤原伊尹	あはれともいふべき人は思ほえて身のいたづらになりぬべきかな	拾遺集	恋五	950
46	曾禰好忠	由良の門を渡る舟人かぢを絶えゆくへも知らぬ恋のみちかな	新古今集	恋一	1071
47	恵慶	八重むぐら茂れる宿の寂しきに人こそ見えね秋は来にけり	拾遺集	秋	140
48	源重之	風をいたみ岩打つ波のおのれのみくだけでものを思ふころかな	詞花集	恋上	211

49	大中臣能宣	御垣守衛士のたく火の夜は燃え昼は消えつつものをこそ思へ	詞花集	恋上	225
50	藤原義孝	君がため惜しからざりし命さへ長くもがなと思ひけるかな	後拾遺集	恋二	669
51	藤原実方	かくとだにえやは伊吹のさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを	後拾遺集	恋一	612
52	藤原道信	明けぬれば暮るるものとは知りながらなほ恨めしき朝ぼらけかな	後拾遺集	恋二	672
53	藤原道綱母	嘆きつつひとり寝る夜の明くる間はいかに久しきものとかは知る	拾遺集	恋四	912
54	藤原伊周母	忘れじのゆく末まではかたければ今日を限りの命ともがな	新古今集	恋三	1149
55	藤原公任	滝の音は絶えて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ	拾遺集	雑上	449
56	和泉式部	あらざらむこの世のほかの思ひ出でにいまひとたびの逢ふこともがな	後拾遺集	恋三	763
57	紫式部	めぐり逢ひて見しやそれとも分かぬ間に雲隠れにし夜半の月かな	新古今集	雑上	1499
58	大式三位	有馬山猪名の篠原風吹けばいでそよ人を忘れやはする	後拾遺集	恋二	709
59	赤染衛門	やすらはで寝なましものをさ夜更けてかたぶくまでの月を見しかな	後拾遺集	恋二	680
60	小式部内侍	大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立	金葉集	雑上	550
61	伊勢大輔	いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな	詞花集	春	29
62	清少納言	夜をこめて鳥のそら音ははかるともよに逢坂の関は許さじ	後拾遺集	雑二	939
63	藤原道雅	今はただ思ひ絶えなむとばかりを人づてならでいふよしもがな	後拾遺集	恋三	750
64	藤原定頼	朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらはれわたる瀬々の網代木	千載集	冬	419
65	相模	恨みわび干さぬ袖だにあるものを恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ	後拾遺集	恋四	815
66	行尊	もろともにあはれと思へ山桜花よりほかに知る人もなし	金葉集	雑上	512
67	周防内侍	春の夜の夢ばかりなる手枕にかひなくたたむ名こそ惜しけれ	千載集	雑上	964
68	三条天皇	心にもあらで憂き世に長らへば恋しかるべき夜半の月かな	後拾遺集	雑一	860
69	能因	嵐吹く三室の山のもみぢ葉は竜田の川の錦なりけり	後拾遺集	秋下	366
70	良暹	寂しさに宿を立ち出でてながむればいづこも同じ秋の夕暮	後拾遺集	秋上	333
71	源経信	夕されば門田の稲葉訪れて蘆のまる屋に秋風ぞ吹く	金葉集	秋	183
72	祐子内親王家紀伊	音に聞く高師の浜のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ	金葉集	恋下	469
73	大江匡房	高砂の尾の上の桜咲きにけり外山のかすみ立たずもあらなむ	後拾遺集	春上	120
74	源俊頼	憂かりける人を初瀬の山おろしよ激しかれとは祈らぬものを	千載集	恋二	708
75	藤原基俊	契りおきしさせもが露を命にてあはれ今年の秋もいぬめり	千載集	雑上	1026
76	藤原忠通	わたの原漕ぎ出でて見ればひさかたの雲居にまがふ沖つ白波	詞花集	雑下	382
77	崇徳天皇	瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ	詞花集	恋上	229
78	源兼昌	淡路島通ふ千鳥の鳴く声にいく夜寝覚めぬ須磨の関守	金葉集	冬	270
79	藤原顕輔	秋風にたなびく雲のたえ間より漏れ出づる月の影のさやけさ	新古今集	秋上	413
80	待賢門院堀河	ながからむ心も知らず黒髪の乱れてけさはものをこそ思へ	千載集	恋三	802
81	藤原実定	ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月ぞ残れる	千載集	夏	161
82	道因	思ひわびさても命はあるものを憂きに堪へぬは涙なりけり	千載集	恋三	818
83	藤原俊成	世の中よ道こそなけれ思ひ入る山の奥にも鹿ぞ鳴くなる	千載集	雑中	1151
84	藤原清輔	長らへばまたこのごろやしのばれむ憂しと見し世ぞ今は恋しき	新古今集	雑下	1843
85	俊恵	夜もすがらもの思ふころは明けやらでねやのひまさへつれなかりけり	千載集	恋二	766
86	西行	嘆けとて月やはものを思はするかこちがほなるわが涙かな	千載集	恋五	929
87	寂蓮	村雨の露もまだ干ぬまきの葉に霧立ちのぼる秋の夕暮	新古今集	秋下	491
88	皇嘉門院別当	難波江の蘆のかりねのひとよゆゑ身を尽くしてや恋ひわたるべき	千載集	恋三	807
89	式子内親王	玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする	新古今集	恋一	1034
90	殷富門院大輔	見せばやな雄島の海人の袖だにも濡れにぞ濡れし色は変はらず	千載集	恋四	886
91	藤原良経	きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしきひとりかも寝む	新古今集	秋下	518
92	二条院讃岐	わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそ知らねかわく間もなし	千載集	恋二	760
93	源実朝	世の中は常にもがもな渚漕ぐ海人の小舟の綱手かなしも	新勅撰集	羈旅	525
94	藤原雅経	み吉野の山の秋風さよ更けてふるさと寒く衣打つなり	新古今集	秋下	483
95	慈円	おほけなく憂き世の民におほふかなわが立つ朶にすみ染めの袖	千載集	雑中	1137
96	藤原公経	花さそふ嵐の庭の雪ならでふりゆくものはわが身なりけり	新勅撰集	雑一	1052
97	藤原定家	来ぬ人を松帆の浦の夕なぎに焼くや藻塩の身もこがれつつ	新勅撰集	恋三	849
98	藤原家隆	風そよぐ檜の小川の夕暮は御襖ぞ夏のしるしなりける	新勅撰集	夏	192
99	後鳥羽天皇	人も愛し人も恨めしあぢきなく世を思ふゆゑにももの思ふ身は	続後撰集	雑中	1202
100	順徳天皇	百敷や古き軒端のしのぶにもなほ余りある昔なりけり	続後撰集	雑下	1205



1 天智
2 持統

志貴皇子 — 光仁 — 桓武

平城 — 阿保親王
在原行平
在原業平

良岑安世 — 遍昭 — 素性

葛原親王 — 高棟王 — 平惟範 — 時望 — 直材 — 親信 — 重義 — 棟仲 — 周防内侍

嵯峨 — 仁明 — 文德 — 清和 — 陽成 — 元良親王

源融 — 源孝 — 是忠親王 — 源宗子

源弘 — 希 — 等

高階良臣 — 成忠 — 儀同三司の母

高市皇子 …… (七代) …… 高階良臣 — 成忠 — 儀同三司の母

長皇子 — 文屋大市 …… 康秀 — 朝康

舍人皇子 …… (五代) …… 清原深養父 — 春光 — 元輔 — 清少納言

天武 — 長谷雄 …… (四代) …… 道貞

奈良麻呂 — 島田麻呂 — 長谷雄 …… (四代) …… 道貞

橘諸兄 — 奈良麻呂 — 島田麻呂 — 長谷雄 …… (四代) …… 道貞

当主 …… (五代) …… 元愷 — 能因

大江雅致 — 和泉式部 — 小式部内侍

敦實親王 — 源重信 — 道方 — 経信 — 俊頼 — 俊恵

源雅信 — 時中 — 朝任 — 師良 — 俊輔 — 兼昌

具平親王 — 源師房 — 頭房 — 頭仲 — 待賢門院堀河

円融 — 一条 …… (四代) …… 鳥羽 — 崇徳 — 行尊

冷泉 — 花山 — 平兼盛 — 赤染衛門

紀本道 — 望行 — 實之

有友 — 友則

貞元親王 — 源兼信 — 重之

貞純親王 — 源経基 — 満仲 — 頼信 …… (五代) …… 頼朝 — 実朝

宇多 — 醍醐 — 村上 — 冷泉 — 花山 — 平兼盛 — 赤染衛門

興我王 — 篤行王 — 平兼盛 — 赤染衛門

具平親王 — 源師房 — 頭房 — 頭仲 — 待賢門院堀河

後白河 — 高倉 — 後鳥羽 — 順徳

式子内親王

皇嘉門院別当

師忠 — 師隆 — 俊隆

敦實親王 — 源重信 — 道方 — 経信 — 俊頼 — 俊恵

源雅信 — 時中 — 朝任 — 師良 — 俊輔 — 兼昌

具平親王 — 源師房 — 頭房 — 頭仲 — 待賢門院堀河

円融 — 一条 …… (四代) …… 鳥羽 — 崇徳 — 行尊

冷泉 — 花山 — 平兼盛 — 赤染衛門

興我王 — 篤行王 — 平兼盛 — 赤染衛門

具平親王 — 源師房 — 頭房 — 頭仲 — 待賢門院堀河

後白河 — 高倉 — 後鳥羽 — 順徳

式子内親王

大中臣清麻呂 …… (五代) …… 頼基 — 能宣 — 輔親 — 伊勢大輔

